

美里町とKABが「学校教育における情報活用教育に関する連携協定」を締結

ふるさとCMの制作を通じて、地域の誉れを掘り起こす～KAB熊本朝日放送が熊本県・美里町の中学生と情報活用教育を通じた新たな取り組みを始めます

令和5年5月25日、熊本朝日放送株式会社は美里町・美里町教育委員会と、情報活用教育に関する連携協定を締結しました。

高森町に次ぎ2例目となる今回の取り組みではメディアリテラシー講座等のほか、「ふるさとCM」の制作を通じて、生徒たちの「伝える力」を醸成する機会を目指します。



こにおける情報活用教育に関する連携協



上田泰弘(うへだ・やすひろ)町長は今回の取り組みについて、「地方にいても教育の可能性に限りはない。テレビ局との学びは、子ども達がワクワクするような教育の一環になる。ふるさとCM制作の取り組みを通じて、町の魅力を見直し、誇りを持つ機会にして欲しい。」と期待を寄せます。

また、ICT教育を推進する中でまたとない機会と話すのは宮崎幸仁(みやざき・ゆきひと)教育長。「機器の使用は抵抗なく取り組んできている。CMを作るという新たな授業の中でイメージーションを深め、プロにしっかりサポートしてもらうことで、自分達が住んでいる町の良いところを発信する力をつけて欲しい」と、具体的な成果を掲げます。



これらの言葉を受けたKABの竹内圭介(たけうち・けいすけ)代表取締役社長は「社是に『地域と共に生きる』と掲げてきた放送局として、テレビ放送以外にどうやったら地域のお手伝い出来るか考えてきた。ICT教育の中で、放送局が何かお役に立てるのであれば、精一杯尽力したい」とローカルテレビ局の取り組みとしての意義を強調します。



本件に取り組む中央中学校・砥用中学校では今後、アナウンサーによる発声講座や、取材ノウハウ・構成の組み方などの基礎講座を実施。10月の発表会に向け、各班でテーマを決めて「ふるさとCM」を制作します。完成した作品は、地域の魅力発信に使用するほか、地上波でも放送される予定です。